

## 自己評価・運営推進会議における評価活用ツール

帳票C

事業所名：三井アセター神町

作成者：原田由美

事業の自己評価

卷之三

日例 ^ 売合 - 五

七

收購處  
- 6.2.21

帳票C

No.	タイトル	評価項目		重要指標会議に係る 外協評議会	記述
		事業所 自己評議会	記述		
<b>I. 理念・安心と安全に基づく運営</b>					
1	理念の共有と実践	A	事業所は、利用者が地域とつながりながら暮らし続けるよう、認知症の人の理解や支援の方針などを共有し、事業所自体が地元の一員として日常的に交流している	ニチイ学館の經營理念と職員全員で作成したグループホームの理念を事業所と各ユニットのリビングに掲示している。全職員が理念を理解して業務に取り組んでいる。	
2	事業所と地域とのつきあい	B	事業所は、利用者が地域とつながりながら暮らし続けるよう、認知症の人の理解や支援の方針などを共有し、事業所自体が地元の一員として日常的に交流している	11月に4年振りにボランティアに来て頂きました。利用者も久しぶりのボランティアに大変喜ばれておりました。今後は、感染状況をみながら徐々にボランティアの受け入れをし交流を図っていくかと思います。また、町内会に参加して毎回清掃活動に参加しています。	
3	運営推進会議を活かした取り組み	B	運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこで意見をサービス向上に活かしている	今年度は、感染対策を行い通常通りの集合型の運営推進会議を開催しています。地域の動向、話題、意見などをお伺いて今後のサービス向上に反映させている。	
4	市町村との連携	B	市町村担当者と日頃から連絡を密に取り、事業所の実情やケアサービスの取り組みを積極的に伝えながら、協力関係を築くように取り組んでいる	運営推進会議には、市役所、包括支援センターからも参加していただき、現状報告や今後の取り組みを説明している。	
5	身体拘束をしないケアの実践	B	市町村担当者と日頃から連絡を密に取り、事業所の実情やケアサービスの取り組みを積極的に伝えながら、協力関係を築くように取り組んでいる	運営推進会議には、市役所、包括支援センターからも参加していただき、現状報告や今後の取り組みを説明している。	
6	虐待の防止の徹底	B	管理者や職員は、高齢者虐待防止関連法について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内での虐待が見過ごされることがないよう注意を払い、防止に努めている	身体拘束禁止委員会を設置し毎月開催し審議結果については全スタッフに周知徹底を図っています。ある部屋で2回実施して、身体拘束等の適正化の指針のマニュアルを熟読しながら拘束のない介護に努めている。	A 委員会を設置し研修も実施している。各ユニットのリビング入口の貼り紙(廊下に出ると、すぐに階段がある)にマニュアルに基づき、虐待防止を徹底している。
7	権利擁護に関する制度の理解と活用	B	管理者や職員は、日常生活自立支援事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、それらを活用できるよう支援している	成年後見制度については、利用している利用者もいる為、研修等で学ぶ機会を設けており日常生活自立支援事業研修も併せて行っている。	
8	契約に関する説明と納得	A	契約の締結、解約または改定等の際は、利用者や家族等の不安や疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている	契約解約改正は、管理者が行っている。不明な点が無いか必ずお聞きし、納得している。契約を行っている。	
9	運営に関する利用者、家族等意見の反映	B	利用者や家族等が意見、要望を管理職者や意見や提案を聞く機会を設け、反映させていている	当社独自の顧客満足度調査に基づき、業務ミーティング時に職員に結果を報告し今後の運営に役立てている。	A 利用者や家族等の意見や苦情の対応は、管理者やケアマネが中心となり聞き取り迅速に対応している。
10	運営に関する職員意見の反映	B	代表者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、給与水準、労働時間、やりがいなど、各自が向上心を持つて動けるよう職場環境・条件の整備に努めている	申し送りノートへの記載や業務ミーティングで意見や提案を聞く機会を設け、反映させていている。また、日常業務においても個人の意見に耳を傾け、活かしていくように努めている。	
11	就業環境の整備	B	代表者は、管理者や職員が同業者と交流する機会を作り、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている	キャリアアップ制度、自己評価、面接試験、筆記試験を実施している。管理者と職員の意識疎通を図り、介護技術や意識の向上を図っている。結果として時給がアップするなどの条件設備を行っている。	B キャリアアップ制度を実施し、職員一人ひとりが向上心を持ち就業の調整が難しかった。
12	職員を育てる取り組み	B	代表者は、管理者や職員が同業者と交流する機会を作り、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている	業務ミーティングの中で年間計画に沿った項目で研修を実施している。外部研修はzoomでの研修に管理者や職員が参加するようにしていい。職員にも研修を受けたかったが、時間の調整が難しかった。	B 研修の年間計画を立て実施し職員を育てる取り組みを行っている。
13	同業者との交流を通じた向上	C	代表者は、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	山形県認知症高齢者グループホーム連絡協議会に加入しており、今年度は11月にオンラインミニセミナーに管理職者やマネージャーが参加するようにしていい。研修を行った。	B キャリアアップ制度を実施し、職員一人ひとりが向上心を持ち就業の調整が難しかった。
14	本人と共に過ごし支えあう関係	B	職員は、本人を介護される一方の立場における職員との関係が途切れないと、支援に努めている	ご利用前に、自宅へ入院先へ施設への訪問し面談を行っている。ご本人様の話を傾聴し、不安や要望等を受け止めるように努めている。	
15	馴染みの人や場との関係継続の支援	C	本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている	コロナの感染状況を見ながら、感染対策を行ない短時間の面会とオンライン面会を実施しており馴染みの関係が途切れないように支援している。施設の玄関先には、毎月の施設での様子を写真に収めている。	

# 自己評価・運営推進会議における評価活用ツール

## 帳票C

事業所名：ニチイケアセンター神町

作成者：原田 由美

作成日：2023年12月15日

運営推進会議における評価実施日：2024年2月15日

(事業所としての自己評価目)

凡例 A. 充分にできている B. ほぼできている C. あまりできていない D. ほとんどできない

※グレーの網掛け部分は外部評価の評価対象外

No.	タイトル	評価項目	事業所 自己評価	記述	監査会 による 外部評価
II. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント					
16	思いや意向の把握	一人ひとりの思いや暮らし方、生活環境、一日の過ごし方の希望や意向の把握に努めている。	B	希望や意向を率直に伝えられない利用者もいるので、日常生活での拳銃や行動をもどに把握に努めている。ご家族様の意見もお聞きしながら、本人本位の暮らし方が出来るように支援している。	
17	チームでつくる介護計画とモニタリング	本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方にについて、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイディアを反映し、現状に即した介護計画を作成している。	B	利用者個々に、担当職員を配置しモニタリングを実施する。また、必要に応じてご家族様から情報を得て計画作成に役立てている。	B 本人や家族の意向を汲み取って運営しているを感じる事が多い。
18	個別の記録と実践への反映	日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、職員間で情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている。	B	日々の状況を個別記録に記入するとともに、状況の変化や気付いたことは、業務管理日報に申し送りノートに記入し全職員で共有し、必要に応じて計画書の見直しを行っている。	B 本人の状態に応じて柔軟にサービスの変更を行い、情報共有を行っている。
19	一人ひとりを支えるための事業所の多機能化	本人や家族の状況、その時々に生まれるニーズに対応して、既存のサービスの多機能化を実現しながら実践やサービスの取り組んでいる。	B	紹介先の介護支援専門員の方や相談員の方、ご家族様から詳しく述べ話を通じ楽しみが持てるような行事を後押し実践している。	
20	地域資源との連携	一人ひとりの暮らしを支えていく地域資源を把握し、本人が心身の力を発揮しながら安全で豊かな暮らしを楽しむことができるよう支援している。	B	コロナ禍で、外出は出来ない状況ではあるが、施設内でのレクリエーションを通して楽しむが持てるよな行事を後押し実践している。	
21	かかりつけ医の受診支援	受診は、本人及び家族等の希望を大切にし、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している。	A	協力医の住診（内科）体制に変化が見られた際に、その都度協力医に連絡し指示を仰いでいる。また、協力医以外のかなりつけ医を希望されている利用者には、ご家族様と連携しながら受診して頂いている。	
22	入退院時の医療機関との協働	利用者が入院した際、安心して治療できるように、また、できるだけ早期に退院できるよう、病院関係者との情報交換や相談に努めている。あるいは、そうした場合に備えて病院関係者との関係づくりを行っている。	A	医療連携室を通して、病棟の看護師から話を伺う。また、その都度入院中の様子を報告している。	A 利用者が入院した際には、医療連携室やかかりつけ医との連携が出来ており連絡が出来ている。
23	重度化や終末期に向けた方針の共有と支援	重度化した場合や終末期のあり方にについて、早い段階から本人・家族等と話し合いを行い、事業所でできることを十分に説明しながら、初歩的な訓練を定期的に行い、実践力を身に付けている。	B	入所時に、重度化や終末期に対する施設の方針を説明している。看護師不在の場合は適切な施設外への医療行為が必要となる場合は紹介する旨入居前に説明している。	A 看護師不在であるが、入居前に医療行為への説明が出来ている。
24	急変や事故発生時の備え	利用者の急変や事故発生時に備えて、全ての職員は応急手当や初期対応の訓練を定期的に行い、実践力を身に付けている。	B	緊急時のマニュアルを作成している。ユニット内に、利用者の容態急変時の連絡ルートが記載されている。また、利用者のファイルを置き、慌てるこどなく迅速な対応に努めている。	
25	災害対策	火災や地震、水害等の災害時に、屋友を問わず利用者が避難できる方法を全職員が身につけるとともに、地域との協力体制を築いている。	A	年2回火災を想定した避難訓練を実施。11月の避難訓練は、消防署の方に参加して頂き日中常の火災緊急避難訓練も実施した（ライド訓練）を行った。区長と民生委員も参加してもらい施設の防火設備、訓練の様子など見ていたいた。	A 避難訓練に利用者や地域の方も参加してもらいたい取り組んでいる。

# 自己評価・運営推進会議における評価活用ツール

帳票C

事業所名: ニチイケアセンター神町

作成者: 原田 由美

作成日: 2023年12月15日

運営推進会議における評価実施日: 2024年2月15日

(事業所としての自己評価目)

凡例 A. 充分にできている B. ほぼできている C. あまりできていない D. ほとんどできていない

※グレーの網掛け部分は外部評価の評価対象外

No.	タイトル	評価項目	自評評価		運営推進会議における評価	記述
			月	記述		
III. その人らしい暮らしを続けるため日々の支援						
26	一人ひとりの尊重とプライバシーの確保	一人ひとりの人格を尊重し、誇りやプライバシーを損ねない言葉かけや対応をしている	A	一人ひとりの性格や生活感、認知症の症状を理解し、それに合わせた声掛けや対応を行なっている。	A	利用者のプライバシーの尊重に努め一人ひとりに合わせた声掛けを行なっている。
27	日々のその人らしい暮らし	職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりの日常生活における希望や意向、暮らしのペースを大切にし、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	B	利用者に希望を聞きながら支援しているが希望を理解し、それに合わせた声掛けや対応を行なっている。	A	利用者のプライバシーの尊重に努め一人ひとりに合わせた声掛けを行なっている。
28	食事を楽しむことのできる支援	食事が楽しめるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員が一緒に準備や食事、片付けをしている	B	食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通して確保できるよう、一人ひとりの状態や能力、習慣に応じた支援をしている	B	利用者の希望や季節を感じてもらえるよう食料を使い楽しみが湧き出すを提供している。
29	栄養摂取や水分確保の支援	口腔内の清潔保持	B	口の中の汚れや臭いが生じないよう、毎食後、一人ひとりの口腔状態や本人の方に応じた口腔ケアをしている	A	ご利用前に、ご本人様の嗜好をお伺いしながら希望に合わせたメニューを取り季節を感じながら、ご本人のその日の状態を加え提案している。参加への拒否がある際には無理強いせずに、ご本人様のベースで過ごせることに配慮している。
30	排泄の自立支援	排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のリズム、習慣を活かして、トイレでの排泄や排泄の自立にむけた支援、便秘の予防等、個々に応じた予防に取り組んでいる	B	毎食後、口腔ケアを行っている。ご自分で出来る方に手洗いにて行なっている。また、介助が必要な利用者はは付き添い、必要な際のみ介助し出来ない利用者様については、排泄のタイミングで看護師の診察を行なっている。また、排泄のリズムが個人差があるため、排泄のタイミングで排泄できるように説明している。	A	毎食後、利用者の状態に合わせた口腔ケアを行なっている。
31	入浴を楽しむことができる支援	一人ひとりの希望やタイミングに合わせて入浴を楽しめるように、職員の都合で曜日や時間帯を決めてしまわずに、個々にそつに支援をしている	B	個人浴槽に入浴出来る方、ご本人様、御家族様の希望に沿って入浴していただいている。また、御家族が多機能型居宅介護事業所の機械浴を利用して入浴している。	A	一人ひとりの排泄リズムを理解し、便通出来るように支援している。
32	安眠や休息の支援	張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活感や力を活かした役割、嗜好品、楽しみこと、気分転換等の支援をしている	B	一人ひとりの休息時間を取り入れている。		
33	服装支援	一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている	A	スタッフ全員が一人ひとりの服用している薬の目的や副作用について学習し、服薬セットの一つに薬と一緒に持つことで、服薬後の状態観察は正確に行なっている。	A	一人ひとりの服薬タイミングを理解し、服薬後の状態観察を行なっている。
34	役割、楽しみごとの支援	一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援に努めている。また、普段は行けないような場所でも、本人の希望を把握し、家族や地域の人々と協力しながら出かけられるように支援している	B	入居前の面談で、ご本人、御家族から得た情報に基づいて学習し、一人ひとりが役割や楽しみを持つ過ごせる様に配慮している。		
35	日常的な外出支援	職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じてお金を持したり使えるように支援している	C	コロナ禍で、外出は自粛しているが、町内への散歩や施設の如での草むしりや収穫などを楽しむ活動は団つても下らないように、支援を行なった。身体活動やゲーム等を通して生活の質を高めている。自宅への外出希望や自宅を離ないと希望された利用者には、家族様と連絡しにむかわせた結果、お小遣いは、施設の金庫で預かり散髪代や生活雑貨などの購入に使っている。お小遣い帳で管理し、御家族様から確認している。	D	一人ひとりの生活感覚を理解し、服薬後の状態観察を行なっている。
36	お金の手持ちや使うことの支援	建物内部は一人ひとりの身体機能やわかる力を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫や工夫、共用なくつなく利用するように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、一人ひとりが居心地よく過ごせるような工夫をしている	A	利用者の皆さんと季節感あつた時には、取り次ぎや展示下に展示している。また、室内で快適に過ごす事が出来るように定期的に換気を行い、室温、エアコン、加湿器の管理を行なっている。	A	利用者と作成した作品を展示するなど季節感を大切にした空間作りが出来ている。
37	電話や手紙の支援					
38	居心地のよい共用空間づくり					

# 自己評価・運営推進会議における評価活用ツール

## 帳票C

事業所名：二子イケアセンター神町

原田 由美

作成者：

作成日：2023年12月15日

運営推進会議における評価実施日：

2024年2月15日

### (事業所としての自己評価日)

凡例 A. 充分にできている B. ほぼできている C. あまりできていない D. ほとんどできていない

※グレーの網掛け部分は外部評価の評価対象外

No.	タイトル	評価項目	事業所 自己評価		運営推進会 議評価	評述
			満足	不満		
IV. 本人の暮らしの状況把握・確認項目(利用者一人ひとりの確認項目)						
40		本人は、自分の思い、願い、日々の暮らし方の意向に沿った暮らしができている	B		利用者に希望を聞きながら支援しているが、希望をおつしやれない方ににはご本人のその日の状態を見ながら、どちら家事や軽い活動、行事への参加を推奨している。参加への拒否がある際には無理強いせずに、ご本人様のペースで過ごせるように配慮している。	
41	本人主体の暮らし	本人は、自分の生活歴や個人関係、暮らしの習慣、特徴など様々な情報をもとに、ケア・支援を受けることができる	B		入居前に、ご本人や側家族様に面談を行い会話を支授事務員の方や病院の相談員の方々から情報を得ている。	
42		本人は、自分の健康面・医療面・安全面・環境について、日々の状況をもとに、ケア・支援を受けることができる	A		協力医の住診(内科)体調に変化が見られた際に、その額度協力医に連絡し指示を仰いでいる。また、協力医以外のかかりつけ医を希望されていても、利用者には、ご家族様と連携しながら受診している。	
43		本人は、自分のベースで、これまでの暮らしの習慣にあつた生活ができる	A		入居前の面談で自宅での生活の様子をお聞きしながら、ベッドの方のベースに合わせて生活出来るように支援させて頂いている。	
44	生活の継続性	本人は、自分のなじみのものや、身近(自室等)に持つことが出来るもの、を、これまでの暮らしの習慣にあつた生活ができる	A		自宅で使用していたベッドや家具などを自室に持ち込んだり居心地よく過ごせるように支援している。	
45		本人は、自分の意向、希望によつて、戸外に出かけることや、催(祭)事に参加することができる	D		今年は、3年振りにさくらんぼボランティアの花壇に参加しました。近所の公園までの散歩や、施設の盆の草むしや盆花祭りを図つからいました。利用者が、自宅を移転した途端に車椅子で自宅を出て歩いていました。	
46		本人は、自分ができること・できないこと、わかること・わからぬことなどを踏まえた、役割や、楽しみごとを行うことができる	B		入居前の面談で、ご本人や側家族様から得た情報をおもに、一人ひとりが役割や楽しみを持つて過ごせるように配慮している。	
47	本人が持つ力の活用	本人は、自分がいいきど過ぎず会話のひど時や、活動場面を日々の暮らしの中で得るこができる	B		利用者の関係性を把握し、席の位置を配慮しないがら職員が適切な役割を立てるように配慮を提供するように支援している。	
48		本人は、自分なりに近隣や地域の人々と関わったり、交流することができる	D		コロナ禍で、地域行事の参加があまり出来なかつたが今年度は少しづつではあるが参加できました。ひとりの利用者ではあるが近所のお友達が、何度も面会に来て頂き交流が出来ました。	
49	総合	本人は、このGHIにいること、職員や地域の人々と親しみ、安心の日々、よりよい日々をおくことができる	B		今年度は、さくらんぼボランティアの実行、運動会などではありましたが地域の人々との交流が復活しました。今まで、感染症を見ながら地域の方と一緒に参加してきました。GHIの生活改善の利用者や職員どもが元気を保ち、安心して日々の生活を送ることができます。	

### 総評

今年度は、2回目の運営推進会議を活用したサービス評価を実施しました。

会議は、集合型で開催し当施設の様子や取り組んでる事などをお話をさせていただきました。構成員の方々からは、質問や地域の情報などを伺う事が出来ました。

コロナ禍ではあるものの、昨年5月より5類に移行なり地域行事への参加やボランティアの受け入れなどを徐々に行なっていました。

今後も、感染対策を行ないながら利用者様が安心して笑顔で日常生活が送れる事が出来るよう支援していきます。

運営推進会議で、利用者家族や民生委員の方の話を聞いてみると、利用者やその家族が安心していきど過ぎるよう運営していただいているのが感じられます。今後も感染対策を念頭に置きながら地域イベント等に参加できたらと思います。

### 参加者サイン欄

・東根市役所福祉課長養成係	・区長
・東根市地域包括支援センター中央	・家族代表 (ほほえみ)
・民生員	・グループホームさくらんぼ (管理者)

氏名の記載は、個人情報となりますので控えさせていただきます。

### 現状におけるご指摘事項・事業所の課題

#### 構成員

感染対策もあるかと思いますが、日常の様子を見学できる機会があればと感じました。

今年度は、感染対策上会議を行う場所が当施設ではなく成員の方々には施設内をみて頂く機会がありませんでした。

次年度は、施設での会議を開催しご利用者様の生活の様子を見てもらいたい新たな課題や改善点を伺いサービスの質の向上につなげていけるように努めています。

#### 構成員

感染対策も、外出する機会は少ないが余暇活動やボランティアの実行など様々な企画を実施している。感染対策をどう行なっている。